H24地域協働研究（地域提案型・後期）

RD-05「観光資源「室根山」を活用した地域活性化へのアプローチ」

課題提案者：一関市室根支所、研究代表者：総合政策学部　教授　吉野英岐
研究メンバー：千葉幸男、畠山和弘、千葉晃（一関市室根支所産業経済課）、小野寺規夫（室根総合開発㈱）

<要　旨>

一関市東部の観光のシンボルである室根山周辺地域の観光客は近年減少基調にある。しかし、今後、「室根バイパス」の開通にあわせて、集客施設が建設される見込みもあり、室根山周辺地域を沿岸部の気仙沼市と内陸部の一関市を結ぶ新たな結節点としての捉え直し、新たな顧客の獲得を目指す時期にきている。本研究では、事業者・行政担当者・大学が共同で地域の新たな魅力づくりの創成にむけた活動を展開し、特に学生の意見をもとに、課題の整理とSNSやホームページを活用した特産品や地域資源の新たな提示方法をはじめとする新たな提案を行った。

1　研究の概要（背景・目的等）

一関市東部の室根地域には、県立自然公園に指定されている標高895mの「室根山」が立地している。室根山の山頂付近からは海と山が連なる360度のパノラマがひろがり、眼下に太平洋岸の気仙沼港、西に栗駒山、北に岩手山、早池峰山が一望できる。さらに夜は街の灯りと漁火が目の前に広がり、他の地域では味わうことができない景観が楽しめる。これまで、天文台、キャンプ場、ふるさと分校等の観光施設の充実が図られ、年間を通じて訪れる観光客の心を魅了してきた。

ただ、近年は観光客の多様なニーズに十分対応できなかったことから、現在の観光客数は最盛期の約半数まで落ち込んでいる。加えて、昨年の東日本大震災の影響でさらなる暗雲が漂い、陰りが増している。

このような状況ではあるが、国道284号「室根バイパス」が開通する予定であり、バイパスの中間点には室根山を眺望できる道の駅的な施設が建設される予定である。したがって、観光客のニーズに応えるような室根山および室根地域の魅力を引きだし、これからの地域の振興と観光開発を実現するための手法の確立と実践プログラムが求められている。

2　研究の内容（方法・経過等）

研究方法は教員と研究室所属の学生による実地踏査、イベントへの参加、関係者へのヒアリング、先進地の訪問である。2013年６月と７月に室根山および周辺地域である気仙沼市を訪問し、資源の確認など実地踏査を、植樹祭や牧場まつりイベントへの参加、関係者へのヒアリングを実施した。９月には先進物販施設の視察として、八戸市南郷、洋野町、九戸村の道の駅を訪問した。それらを踏まえて、2014年２月に現地で報告会を開催した。

実地踏査をもとに、室根山周辺地域の課題として、①東日本大震災の影響の軽減、②交通アクセスの改善、③観光資源の新たな組み合わせ、④室根固有の魅力創出、⑤観光資源の目的別検索、⑥冬季期間の活用、⑦顧客の求める観光要素への対応を指摘した。これらについて学生から具体的な改善提案を行った。

さらに、研究室の学生を中心に、地域資源（自然資源、施設、地元食）の配置を示したマップを作成した。

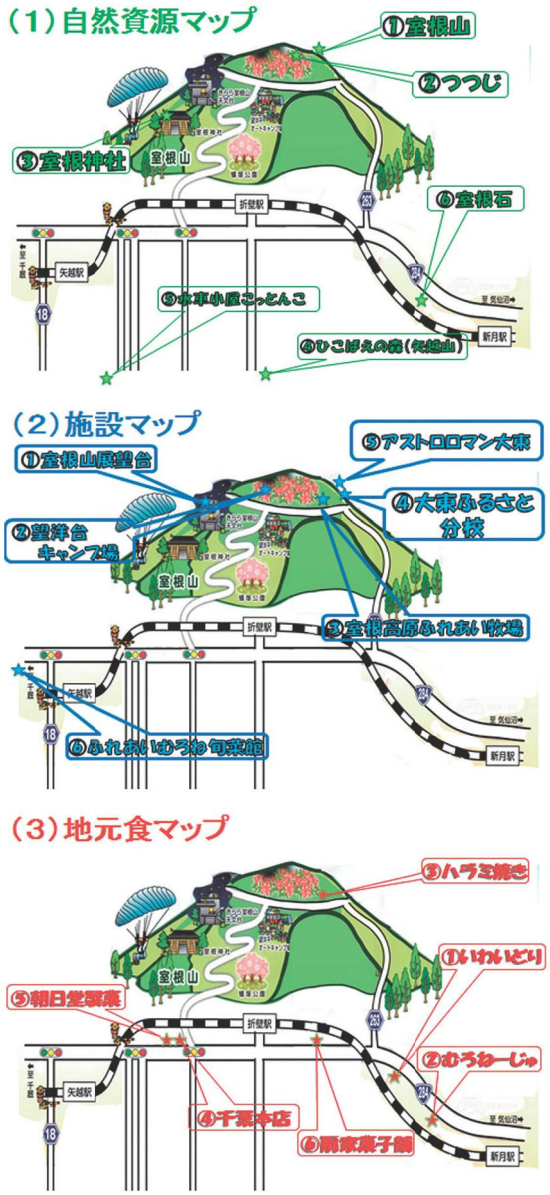

図１　地域の資源マップ

以上のような課題の整理と地域資源の配置を確認する

マップ作成を行った上で、提案を行うべき領域と方向性を絞り込んだ。

ア　室根山周辺施設の連携活用
　展望台、ハングライダー施設、オートキャンプ場、フィールドアスレチック施設、レストラン、宿泊施設、牧場等の連携を強め、地域イメージをより明確に示す。

イ　室根山の魅力発信と誘客促進活動
　室根山のもつ魅力の再構築とその発信力の強化により、誘客促進につながる活動の展開を支援する。

ウ　新施設で販売する特産物の開発
　国道のバイパス建設に伴って設置予定の物販施設で販売ができるような特産品の開発につながるようなアイデアの提示を行う。

エ　交通環境の変化後の折壁地区の活性化
　国道のバイパス建設によって生じる自動車や歩行者の動線の変動を把握し、これまでの折壁商店街と室根山につながるアプローチを再考し、来訪客の利便性に適応するかたちで、既存商業地の活性化を図る。

3　これまで得られた研究の成果

調査結果から今回、提案する内容は以下の点である。それは①売り出す産品の統一化、②商品ポスター・POPの作成、③手作りマップの作成・配布、④SNSを活用した宣伝活動、⑤商品売込みの支援、⑥ワークショップの開催の６点である。

①売り出す産品の統一化については、室根地域にある多数のお菓子類をまとめて紹介するような見せ方を提示した。

図２　室根で製造販売している商品群

②商品ポスター・POPの作成について、実際に作成した作品は以下のPOPである。パソコンに頼らず、手作り感をだすような形でPOPを制作する。できるだけ、若い世代にもアピールする姿勢を明確に打ち出す。

このほかSNSの活用については、多様な世代のアイデアや技術を取り入れることで、今日のニーズにあった情報の発信方法を提案した。

図３　学生が作成したPOPの例

4　今後の具体的な展開

今後の展開として以下の点を提案した。

①広報情報を紙媒体からネットへ移行
　室根総合開発ですでに取り組んでいるツイッターやフェイスブックの活用として、室根関連情報のリツイート、HPへのリンク、イベントのつぶやきを行う。

②イベント時の交通アクセス方法の改善
　公共交通機関を使っている人を向けに、最寄り駅や気仙沼から室根山へのシャトルバスを運行する。

③室根総合開発クーポンの作成
　経営主体の「見える化」を進めるため、施設共通ロゴマークとクーポン（関連施設利用者向けのまきばの湯無料入浴券、乗馬施設･牧場レストランの相互割引券）を発行する。

④６つの旅行プランの提供
　利用者の目的にあわせテニス合宿、修学旅行、平泉＆舘ヶ森、野外活動、 恋のまち、ふるさとインターンシップ受け入れの各プランを造成する。

⑤ふるさとインターンシップの受け入れ
　地域活性化に携わりたいと考える学生向けにふるさとインターンシップを導入し、学生を受け入れて、学習･体験の機会を提供する。

⑥室根石の活用
　名産の室根石については、加工後の完成品の販売に加えて、加工工程そのものを商品化したり、オリジナルのネックレス、ブレスレットの製造販売を行う。

このほか、詳細な観光客数カウント（年齢・性別・出身など）、各資源のターゲット層の確認、イベント企画書の作成なども今後必要な作業として提案した。

5　その他（参考文献・謝辞等）

調査の実施にあたり、一関市役所室根支所産業経済課および室根総合開発㈱の皆様には全面的にご協力をいただいた。また研究室の学生からは貴重なアイデアの提示を受けた。記して謝意を表したい。